



米国で行った震災被害に関する英語プレゼンテーションを披露する大槌高生（奥）

大槌高生 実り多き米派遣

盛岡で 報告会 英語スピーチ披露

外務省の青少年交流事業「キズナ強化プロジェクト」で米国に派遣されていた大槌町の

大槌高（山形守平校長、生徒293人）の1、2年生19人の帰国報告

会は27日、盛岡市東中の野の県知事公館で開かれた。派遣生徒が達増

知事らに、実際に米国で行った英語のプレゼンテーションを披露し

感想を語った。プレゼンテーション

は▽同町の震災前後の様子▽支援について▽復興計画▽震災が教えてくれたことーの4部

構成。同町の被害を写真で紹介したほか、復興

と支援に対する一人ひとりの率直な思いを語った。

世界中からの支援についてスピーチした佐野薫さん（1年）は、

海外からの手紙に「friend（友達）」とあり、世界は一つだと感じたエピソードを

紹介。「米国訪問でも支援を継続して

今でも支援を継続して今でも支援を継続して

今でも支援を継続して今でも支援を継続して

今でも支援を継続して今でも支援を継続して

今でも支援を継続して今でも支援を継続して

今でも支援を継続して今でも支援を継続して

達増知事は「素直に気持ちを支える素晴らしいプレゼンテーションだった。皆さんを誇りに思う」とたたえた。

生徒は5日に出国し、サンフランシスコやシアトルなどの学校を訪問。ホームステイなども経験し、16日に帰国した。

この日は高校生らが基地内の博物館を見学

し、謝意を伝えた。

【サンディエゴ共同】東日本大震災で被災した気仙沼市の高校生ら

8人が26日、米カリフォルニア州サンディエゴの海兵隊基地を訪

ね、米軍による救援活動「トモダチ作戦」で

気仙沼市の離島、大島でがれきの撤去などを

した米兵たちと再会し、謝意を伝えた。

この日は高校生らが

基地内の博物館を見学

し、謝意を伝えた。

この日は高校生らが

基地内の博物館を見学

し、謝意を伝えた。

この日は高校生らが